

時計



Aブロック全作品と講評

www.columnland.net

A-1

十二時五十九分

昨日
が
昨日

日
に

今
未来へ
明

一歩一歩

に
日

日
今
が

相対性理論の話

それは、おれが夏休みに入る終業式を終えて、小学校から帰る途中の出来事だった。

友達と別れて一人で歩いていると、妙なおっさんに声をかけられた。

おっさんは薄汚い身なりだったが、いやに子どもっぽい目をして、おれに相対性理論を見せてやると言った。

おれはこう見えて理科が得意だ。相対性理論が何かをやってくれるすごいものだということは知っていた。

俺は言われるがままに、自分の懐中時計をおっさんに手渡した。

その懐中時計は、こないだ亡くなったじいちゃんにもらった宝物で、持っている大人になったような、誇らしい気分になれるものだった。

懐中時計は十二時ちょうどを指していた。

おっさんはその時計を金ぴかの鎖につけ、思いっきり振り回しはじめた。5分間もそうしていただろうか、おっさんは不意に回転を止めて時計を手にとり、文字盤を睨んでこう言った。

「物体は速いスピードで動くと進む時間が遅くなる。これが相対性理論の表れの一つだな」

時計を見せてもらうと、時計はまだ十二時ちょうどを指したままだった。おれは、目の前で起きた奇跡を受け入れようとするので精一杯のまま、ぼうつとした頭でおっさんを見送った。

ようやく落ち着いた俺は時計を見た。汗ばんだ手元には、おっさんに返されたままの時計があった。

時刻を直すべきかどうか考えながら時計を持ち替える。

すると、針が重力に従ってくるんと回り、ぶらぶらと振れ、やがて時針も分針も秒針も6をびったりと指して止まった。

時計は二度と動くことは無くなり、おれはめちやくちや叱られた。

今思えばこれが、私が物理学者になったきつかけだったのかもしれない。

液体のようなあの子が好きだった

だれのものにもならない

ゆるやかなあの子が好きだった

絵本をめくっている間だけ

ひどく早く駆けていってしまふ

意地悪なところも好きだった

今は僕の手首の上で

数字と一緒に閉じ込められて

世界中に散らばる檻に

ばらばらの身体でうずくまっている

液体のようなあの子が好きだった

だれのものにもならない

ゆるやかなあの子が好きだった

時計回りの生活に対して私ができることは

ただ警鐘を鳴らすことだけであろう

先日、友人と長崎に旅行に行った。一日目は市内を散策した後、旅の疲れもあったので早々に旅館に行き、床に就いた。二日目の午後は天候が良かったので、友人に誘われるままに軍艦島クルーズの上陸コースというものに参加した。正直、私は乗り気ではなかった。というのも、それは所要時間が約3時間であり、島から戻ってくる頃には夕方になってしまつて他の観光地に行けなくなるのだ。しかし、友人があまりにも行きたがるので私は渋々ついていくことにしたのだつた。

ところで、軍艦島はどのくらい有名なところだろうか。友人の話によると、軍艦島とは外観が軍艦のようだからそうに呼ばれているのであつて、正式名は端島というらしい。私も、以前は炭鉱で栄えていたが現在では無人島であるというようなことはどこかで聞いたことがあつた。要するにただの廃虚群としか思つていなかった。しかし、彼に言わせると、軍艦島は大正から昭和に移る集合住宅の遺構としての文化的価値が大きく、同時に、一種のロマン主義的芸術をその内に秘めているらしい。いずれにせよ、軍艦島を知っているのは少数であらうと思つた。

そうこうしているうちに、目的地に着いた。外から見る限りただの古びた島なのだ。しかし、船から降りた瞬間、そう、島に足をつけた瞬間に私は感じたのだ。

「ここは時間が止まっている…」

と。廃虚だと知っていたので生活感も建物も当時のままだらうと思つてた。確かにその通りなのだが、その時の衝撃は筆舌尽くし難い。強いて言うなら、絶望だらう。

私達は日々を錯綜する都会で過ごし、終始ノルマに追われカルマを遂行することに執心している。そのような自分を全否定されたような絶望なのであつた。しかし、それは同時

に心地良い絶望なのであつた。つまり、私自身がそのような日常に違和感を覚え、「自分」とは何か、「自分」は何のために存在しているのか、そのようなことをただただ考えることもあつたのだ。しかし、軍艦島が私に与えた絶望はそのような“下らない”悩みを一蹴した。島の壮大な時間の歩みが私の尊大な性に何かしらの影響を及ぼしたのだろうか。わからない。

そのような絶望感を感じながら島内を歩いた。暑さも寒さも感じないし、何の音も聞こえなかった。私は自然全体とシンクロしている様な気分であつた。ところが、突然私の眼中に何か黒い物体が入り込んできた。時計であつた。硝子が割れていた時計は九時五十分を指していた。ああ、やはり時計は止まつていた。この島を象徴するように。いや、あの時計が止まつたから島の時間が止まつたのではないか。まさに世界とはそのようなものかもしれない。常識とされている包含関係が実は反対であつたり、善や正義、規則や秩序といった自分が盲目的に信じている一切の事象が客観的見地からは全くの虚であつたりするのもかもしれない。

そのようなことを考えていたら時間は来た。もつとも、時間の流れていないような島にいるのにこのような表現は違和感を覚えるだろう。ただ、私はこの島の住人ではないという事実が残酷にも私を切り刻むのだ。いずれにせよ、船に戻らなければならぬ。島にいた時間は、思い出してみると一瞬にも、一生の分にも感じられた。軍艦島の陶酔感の中、私の視界に、無理矢理何かが進入してきた。白い時計であつた。時計は三時五七分を指していた。当然のごとく、時計は動いていた。その一秒一秒が私にまとりつき、雁字搦めにしてくる気がした。そこはかとなけい寂寥感に侵されながら私は桃源郷から戻つて来たことを感じていた。

終

ましろみ

誰かが自分を呼んでいる。
そんな気がした。

目を開いた

教室では退屈な授業

退屈な何も変わらない日常

目を閉じる

何かが自分を呼んでいる。

そんな気がした

目を開いた

教室では退屈な授業

隣の席の奴は何故か笑う

目を閉じる

自分が自分を呼んでいる

そんな気がした。

んぐおおおー

その日から僕のあだ名はスヌースになった。

「こちら、時間屋。限りある人生ですが、思ったように行動出来るとは限らない。ならあなたにもっと時間を。お金さえ払えば、限りある時間をお売りする仲介を致します」

—時間屋—

男は最近勤めていた会社が倒産し、無収入になってしまった。さらに、妻も子供もいるにも関わらず、毎日一攫千金の夢を見てギャンブルに興じる日々。

負けが込んでやけ酒をしたある日、何とはなしに入った裏路地で、彼は出会った。

時間屋と、相手は名乗った。

時間屋を売ると、時間屋は言ったが、あいにく男は金もなければ今過ごす毎日さえも地獄だった。

なら、と時間屋は言った。

あなたの一秒を、私が一元で買い取ります。一秒一元、一分で六十円、一時間で三千六百円、一日で八万六千四百円、一年で三千五百三十三万六千円……時間屋は淡々と述べる。

男は即決で自分の時間を売ることにした。すると、時間屋は契約書を出してきた。男と、信頼出来る人間の名を書くように告げる。男は自分と妻と子供の名前を書いた。

すると、時間屋は無骨なデジタル時計を出してきて、目覚まし時計のように出っ張っていたスイッチを押すように促した。男が押すと、時計の目盛が表示される。

『50V 203D 11H 03M 29S』

単位は、年数、日数、時間、分数、秒数を表しているのだと時間屋は言う。

時間屋は、心なしか口元を歪めて言った。これが、あなたの売ることの出来る時間。

金が無尽蔵に湧いて出るような心地がしていた男は、時間屋から受け取った大金を元手に様々な企業を興した。

しかしそう易々とは成功しない。何度も何度も失敗し、それでもようやく一つの企業が大成を収めた。

今までの失敗を帳消しにして余りある財産を築いた男は、妻や子供に楽な生活をさせるために豪邸を建てた。

そして男は最後になるであろう時間屋を訪れた。

男のデジタル時計の目盛は既に一年を切っていた。男は時間屋への感謝も込めて、それからもし本当に自分の時間がこれだけしかなくて、しかも時間を買えるのなら、男は時間屋に言った。

百年ほど買いたい。いくらだ？

時間を買った時よりも莫大な料金であったが、男は悠々と支払った。

すると、確かに触ってもいないのに時計の目盛は百年追加された。

これで家族と楽しく過ごす時間が作れる。男は意気揚々と裏路地を後にした。

—時間仲介屋—

「こちら、時間屋。限りある時間をお売りする仲介は致しますが、汚いお金がいけないように、信頼のおけない時間をお売りすることはありませんので、あしからず」

時間屋は、豪邸の床を埋め尽くす札束の上を歩き、ひん曲がったゴルフクラブの横に落ちていた壊れたデジタル時計を拾うと、誰もいなくなつたそこを後にした。

——時間屋の行方は、杳として知れない。

大決戦

(畜生、これではあと五手でどうしても詰んでしまい俺の負けだ。くそ、何か他に手はないのか。ああ、持ち時間もあと六分を切ってしまった。あの時計の針が一二時を指したらおしまいだ。ああ、どうしたらいい!。)

(ふう、ぎりぎりの戦いだったがどうやら俺の勝ちみたいだな。あとはここに飛車を進めて…、ん？ これは？ ああ、やばいぞ、ここに桂馬を打ち込まれたらこの手筋が成立しない。これでは…、ん？ もしかしたら逆転されてしまうかもしれないではないか。時間は？ えっ？ あと三分しかないのか！ 勝てると思ってさっき使いすぎてしまったのか。うーん。今のところこいつは気づいていないようだが、ここに打たれて、長期戦になったら、時間の短い俺が明らかに不利だ。頼む！ここで投了してくれ！)

(くそ、あと五分だ。こいつ、さっきからちらちら俺のほうを見てきてやがる。うつとうしいんだよ。俺はお前のそうゆう顔が我慢ならないんだ。俺にその脂ぎった顔を見せるな!)

(なんだなんだ。なんで俺をにらみつける。ここまできて、俺を威嚇しているのか、それとも…、あの手に気がついたのか？ くそ、こいつの気をそらさねば。気づかれたらやっかいだ。どうする？ ここはひとつでかいくしゃみでもしてこいつの集中力を切らしてやるか？ それにしても暑いな、この部屋は。)

(ああ、うるせーな。そうばたばた扇子を煽ぐな！ 口をあけるな！ そのヤニで黄ばんだ齒も見てるといらするんだよ。あつ、ついにあと四分だ。くそ、こうなったらとんでもない所に打って、相手に考えさせて、こいつの時間切れを狙う作戦で行くか。よし、ここだ。)

(あつ、ついに打ったか…、ん？ なんだこれは？ どういう意味なんだ？ 何を考えている？ ああ、このハゲ親父め。いい加減あきらめろよ。さっさと投了して、育毛に専念しろよ。くそ、時間がないな。)

(なんて白熱した戦いな！ こんな切迫した対局、見たことないわ。二人は今、頭の中でどんなにハイレベルなことを考えているかしら。きっと私には思いもよらないようなことを考えているんだわ。ああ、この対局の時計係になれて本当に良かった!)

(ああ！ その鼻毛も手入れくらいしろ、見ると腹が立つんだよ!)

(このハゲ！ 頭をかくな！ 髪が減るぞ!)

.....

僕の三六五面体

僕のベッドに 僕は寝転び

僕の時間を 僕は拒む

すると心は叫ぶのだ、あれでもない、これでもない、
あれでもない、これでもない！

中原中也

復讐の時

僕は、今までずっと、あいつのことが憎くて憎くてたまらなかった。何も知らない人には物騒なことを言っているように聞こえるかもしれないね。だけど、僕がこう思うにはちゃんとした理由があるんだ。

僕は今まで、毎日のようにあいつからひどい仕打ちを受けてきた。具体的にはどんなこと、だって？ そうだな、あいつは当たり前のように僕を平手で強くはたくんだ、毎日のあいさつのように当たり前ね。これなんてまだやさしい方だよ。時には、そのまま壁に突き飛ばされたり、高い所から突き落とされることもあった。僕の頭がところどころへこんでいたり、体が傷だらけな理由がわかっただろう？ この傷は、痛みは、ずっと消えないんだ。

だからね、この日をずっと待っていたよ。待っていたというより、ずっと耐えてきた、と言ったほうがあっているかもしれないな。今日、僕の手で、あいつの人生をめちやくちやにする。しょうがないよ、あいつは僕にこうされてもしかたがないやつなんだから。お気楽なもんだよ、これから復讐されるとも知らずに、アホ面でいびきかいてんだぜ？ お前は僕のことを奴隷くらいにしか考えていなかったんだろ？ なあ、奴隷に逆らわれる気分はどうだよ？ ああ？

目覚めたときに、うんと後悔すればいいよ。

思い知れ。

「……なんで目覚まし鳴らなかったんだ……？」

砂時計の愛

さらさら　さらさら

あなたがわたしへ流れ込む
わたしがあなたへ流れ込む
あなたとわたしを結ぶ管は
とても細くて脆いもので

だから
わたしたちはそれを補強する
いろいろなもので補強する

どんなに補強しても
管が折れてしまうことはあって

わたしはそれが怖いから
管を抜けてしまった
それは間違いだった

あなたが身近になりすぎて
その尊さすらもわからなくなってしまった

そして

歪な砂時計は二つに割れてしまった

【特報！】話題の高性能腕時計がいに発売

今回ご紹介する商品は、小さなボディに最新の技術を詰め込んだ超小型デバイス「SACIO P5083A」です。

本製品の目玉は何と言っても2.5インチワイド液晶！写真や動画を楽しめるほか、GPS機能を使えばカーナビとしても利用可能。さらに、電子辞書やデジタルコミックなど、ディスプレイ付きならではのコンテンツが満載！

その他にもさまざまな機能が充実！

★1000万画素高精細カメラ内蔵！動画も撮れる！

★電池切れの心配不要なソーラーパネル搭載！

★長時間腕につけても疲れない100g軽量設計！

★安心の10気圧防水！

★メーカー3年保証付き！

★万が一のために小型麻酔銃を標準装備！

各家電量販店にて好評発売中

メーカー小売希望価格 29800円

※軽量化のため、時計機能は搭載しておりません。

私には産まれたときから持っている時計がある。

暑い日でも

寒い日でも

晴れの日でも

雨の日でも

その時計が休むことはない。

今日もきつと正確に動いてるだ………

グウ————ツ!

「あつ、お昼の時間だ!」

腹時計

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	十二時五十九分	2 pt	9 位	8 sp
		日付が変わる瞬間のときめき。それとも深夜のハイテンションでしょうか。 あざやかなレイアウトとフレーズ、文字の数まで十二個に揃えて、きれいにを見せていただいた今週の表紙なのですが、が、が…… あーあーあー。やってしまいましたね。十二時から一時のほうがり切り替わるタイミングの気がしてしまう。ちょっとした勘違い、といったところでしょうか。 でも、そこがかえって注目してもらえて、圧勝最多特別賞&今週のイチオシフレーズ大賞のダブル受賞でした。結果オーライと考えましょう、おめでとう!! 特別賞：あと一步で賞（十二じゃなくて十一！）1時間遅刻で賞これはきっと11時59分で賞 タイトルミス賞（一分進んでも日付は変わらない）惜しかったで賞（1時間ズレました） マチガイ賞（十一時じゃね？） いじりたい賞（なんで十二時五十九分なのか的な） 1時間早かったで賞 イチオシフレーズ：「十二時五十九分」×3 「今日が昨日に明日が今日に」		
A02	相対性理論の話	4 pt	7 位	1 sp
		なんだか憎めないヘンなおっさん。あーあ壊れちゃったというオチへ行くまで、ぐるんぐるん一緒に時計の行方を見つめてしまいました。 意外とおっさんもマジメに信じてたのかも？ 悪人の登場しない世界にほのぼの。 特別賞：道ゆくおっさんに気をつけま賞（この賞をどうしてもおくりたかった）		
A03	無題（液体のようなあの子が好きだった）	4 pt	7 位	0 sp
		あの子は液体、ゆるい存在。 過去形なところがせつないですね〜。「手首の上の檻」というイメージが斬新です。全体、まるで歌詞のようなふうわり感。		
A04	時計回りの生活に対して私ができることはただ警鐘を鳴らすことだけであろう	10 pt	3 位	2 sp
		軍艦島、珍しいところへご案内いただきました。 ちょっと感動の表現が大仰でかえって読み手を引かせてしまうのが難点だけど、とにかく感じたことをどうにか届けようという真剣さがきっちり伝わってきて好感度大です。がんばれ正統派！ 応援気分も加わってのブロンズ・メダルでした、おめでとう！ 特別賞：まさにコラムで賞（最後まで真面目なコラムだった。） 文才賞（小説や評論を書いて生活を営んでいる人のような文章だったから）		
		2 pt	9 位	0 sp
		呼ばれているのに反応できない超眠さ。		

A05	まどろみ	さざなみレイアウトで、その夢うつつ気分を伝えつつ、スヌーズのひとつでさらりとオチ。ていねいに仕上げられたグッジョブでした。 イチオシフレーズ：「んごおおー」×2
A06	一時間屋一	8 pt4 位1 sp アヤしい裏路地。つついハマってしまうセールストーク。王道の設定ですね。 長いけれど、とても分かりやすくする運ばれて、そうは問屋が卸しませんでしたオチ。ドラマ性ゆたかな仕上がりですが、ラスト、ちょっとズルいぞ時間仲介屋さん。 特別賞：S F 的で賞（よかった） イチオシフレーズ：「杳」
A07	大決戦	19 pt2 位0 sp 暑苦しさがリアルです。時計に追い立てられて、焦りまくってる脳内劇場。 プロといえども、こんな面はありそうだなあと思わせる迫真の描写で、ぐいぐい引き込んでいただきました。目の前のできごとなのに全然気づいていない時計係のお嬢さんが、またいい味ですね。 おめでとうシルバー・メダル!! イチオシフレーズ：「こんな切迫した対局、見たことないわ!」「なんて白熱した戦いなのに!」「さっさと投了して、育毛に専念しろよ」
A08	僕の三六五面体	1 pt12 位1 sp 「僕は拒む」というフレーズが読み手を驚かせて、重石のように効いています。 ただ引用でまとめて中原中也の印象が強くなってしまったので、もっと全体を自分の言葉で深く構成するとよいのでは。 特別賞：解説してほしいで賞
A09	復讐の時	23 pt1 位1 sp おー、うまいうまい。このあと捨てられちゃうことも辞さない、まさに捨て身の復讐ですね。 最初から語り手の正体はバレバレなのに、きっちり引き込んだじゃう、それだけこの目覚まし君のキャラクターがしっかり立っていました。キャラ造型の見本、見習うべし。壇上の作者コメントまで、目覚まし時計になりきって愛を訴えるなんて、やるなあ！おめでとうゴールド・メダル!! 特別賞：あるある賞（共感できたから） イチオシフレーズ：「思い知れ。」「・・・なんで目覚まし鳴らなかったんだ?・・・」
A10	砂時計の愛	8 pt4 位0 sp ふたりのあいだの砂時計。比喻がきれいに効いています。 近づきすぎないほうが長続きするんだよ。まさに恋愛の極意ですね。この道まだまだ初心者みなさまは、しっかり会得すべし。
		7 pt6 位1 sp 時計じゃない腕時計っていったい……派手なセールストークの結末に啞然です。

A11	【特報！】話題の高性能腕時計がついに発売	でも、本来の目的を失ってしまったモノって、身近に意外にあるかも。 レポートの重石にしか使われない広辞苑君とか、辞書＆目覚まし時計と化してしまった携帯君とか、……悲しすぎるか。 特別賞：コナン賞（イラスト付き） イチオシフレーズ：「＊軽量化のため、時計機能は搭載しておりません。」 「万が一のために小型麻醉銃を標準装備！」
A12	腹時計	2 pt9 位0 sp しっとり始めておちゃめに終わる。 フォントのメリハリで、視覚的に攻めて、読まれる時間帯もジャストフィットなすぐれものの裏表紙でした。 イチオシフレーズ： 「グゥー——————ッ！」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	Time is limited	0 pt11 位2 sp 電車での出会い。小さな空白をはさんで、ささやかな進展。がんばれ内気な僕。 すべてを書ききらないことで、ふわっと想像が花開く。なごみ表紙でした。 なのにっ！今週は表紙受難の週なのではないでしょうか。痴漢だのストーカーだの、あーあーあーあー。みなさま、きれいな心で読みましょう☆ 特別賞：痴漢寸前賞（危ないから）ストーカーで賞（ストーカーだから）		
B02	ゲーム	11 pt3 位1 sp ハラハラする駆け引き。設定もストーリーも緻密に組み立てられて楽しめます。で、これ誰が助かるの？全滅は悲しいなあ。 せっかくの力作、レイアウトをもっと読みやすくすると良い。 でもきっちり読んでもらえてのブロンズ・メダルでしたね、バースデーの快挙、おめでとう！ 特別賞：とりはだ賞（長い文章をよく書けたなあと）		
B03	「秒針の気持ち」	2 pt8 位0 sp いちばんマメな秒針君のいっしょうけんめいさ、けなげさが、伝わってきます。 なんだかメロディを付けて応援してあげたくなりそうな。		
B04	その針動が私たちを追い立てている	2 pt8 位1 sp 蛇に見立てたという着想が何ともユニーク魅力的。「チクタクと動く舌」なんて、そうそう出てくる発想ではありません。 アダムとイヴの世界をも参照されたのでしょうか。神話的な奥行きを感じました。 特別賞：比喩賞（比喩がすばらしい）		
		11 pt3 位1 sp フォントがフレーズにとってもよく似合っていますね。 永遠の追いかけて、かわいらしくまとめていただきました。		

B05	チクタク・ランデヴー	絵本テイストなタイトルがナイス！ 4000秒の正確さもフロアに評価されてブロンズ・メダルです、おめでとう！ 特別賞：トリビアで賞（4000秒を知っていたから） イチオシフレーズ：「4000秒くらいの」「愛の追いかっこ」
B06	教室の隅で	7 pt 6 位 1 sp パトラッシュ死なないで！ ちょっと止まるだけでいいんだから。 時計の自己犠牲ですね。泣ける話です。 がんばれ少年。一緒に応援したくなる、あったかストーリーでした。 特別賞：自爆しなくてもよかったで賞（反対に回ればよかったから）
B07	時刻むもの	1 pt 10 位 0 sp 長針短針ラヴストーリーはととてもとてもたくさんあったのですが、これは立ち止まれないせつなさを「悲しい宿命」と重々しく突き放したスタンスがユニークでした。
B08	個人主義	0 pt 11 位 0 sp 人は個人個人の時間を生きる。統制なんかされないさ。 どっくんどっくん。 クライアントともども、びっくり仰天の切り返しで、赤黒いリアリティがぐっと迫ってきます。グロさ（食事前なのに！）も味方に付けたインパクトでした。
B09	無題（自分に誇りを持てること）	10 pt 5 位 2 sp 両極端から説き起こして結論へ。 レイアウトと主張の構造がきれいにシンクロして分かりやすい工夫です。 ラストの宣言は、ちょっと急ぎすぎたでしょうか。 特別賞：レイアウト賞（レイアウトがいい） ドヤ賞（ドヤ感たまらない!!） イチオシフレーズ：「自分に誇りを持てること」× 2
B10	時計のつぶやき	30 pt 1 位 2 sp まさに発想の逆転！ 思いつきそうで、意外や、じつはこの作品だけだったというユニークさ。 アイディア勝負の諸賢は見習うべし。 30ポイントのメガ・ヒットでしたね。イチオシフレーズ大賞も付いてのゴールド・メダルでした。おめでとう!!! 特別賞：ダントツで賞（班のみんなから票を得たから） 左回りで賞 イチオシフレーズ：「A型？」 「あー」 「いつか左向きに回ってみたいなー。」× 4
B11	だいがくせいにつき	12 pt 2 位 3 sp ちょっとした悟り。なるほどね。 ありがち大学生の日常が、フォントの変化ともどもユーモラスに描写されて、しっかりフロアの共感を誘いました。シルバー・メダル&最多特別賞ゲットです、おめでとう!! 特別賞：デジャブ賞（思いあたる節があってドキッとしたから） がんばりま賞（サボるな！） 真理賞（大学生活の真理を表しているから） イチオシフレーズ：「あしたからがんばる。」× 3
		4 pt 7 位 2 sp 胸キュンな甘さ。空白にしっかり語らせてますね。 敢えて状況を見せず、いかようにでも想像できるところ

B12

恋時計

ががすてきな今週の読み納めでした。

おしあわせにっ。

特別賞：気取ってるで賞（気取ってます（笑））ラブ・

プラス賞（参考文献：ラブ・プラスDS）

イチオシフレーズ：「私、キミのことが好きみたい」

「僕の胸の鼓動がいつそう早く時を刻みだした。」